

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ③

田子の浦に
うち出でて見れば
白妙の

山里は
冬ぞ寂しさ
まさりける

忘れじの
ゆく末までは
かたければ

心あてに
折らばや折らむ
初霜の

秋風に
たなびく雲の
絶え間より

有明の
つれなく見えし
別れより

人目も草も
かれぬと思へば

富士の高嶺に
雪は降りつつ

漏れ出づる月の
影のさやけさ

今日を限りの
命ともがな

暁ばかり
憂きものはなし

置きまどはせる
白菊の花